



上
蝶乃夢
書

中村俊定文庫
文庫 18
323



太平御覽



蝶の夢



と序

夢人にちふ事あるを山陰路
乃はのひあひもを 仙も 仙も
さる 枕言古く 風鈴の例
事いと好むるも 実とて 細話
とほまゝ互に心のくも 晴る
枕話そ乃うけとて 道の

伝仰たらんす皮ふきとあつし上りあり
 に道なきとらんといふかあつしや
 松よすしうの友とあひとあつしに今の
 人をとてあつしあつしあつしとあつし
 一はとあつしあつしあつしあつし
 解酒はあつしあつしあつしあつし
 さらんやことあつしあつしあつし
 松浦松浦乃二國とあつしあつしあつし

追薦とまひと身のかきあつしあつし
 乃鬼を謝しあつしあつしあつし
 ねえうやあつしあつしあつし
 永く百學とあつしあつしあつし
 其文恒を記しとあつしあつしあつし

宝暦甲戌





内むのけひとそにせし人の
ういふあまの跡を伝へて
かゝるおとろふを

うめく

文先

秋と初め録れ一ちやうふのえ

明いさき表のうらむ雨晴

里朴

況是に勝のえこり おふく

江西

喰ふさふようちとちやくも

菓子

いし掃と伝う板場いばきけ

山市

えあしうとのあふ代産

表漢

月夜の宴とてうゝおのる	山あけの銀告とてく	おん父入をぬくはく連あると	あまのうの位方ていふ	家業傳へるおとよとていふ	曇るおの位とていふ	何やあまのうとていふ	いふおのうとていふ
草添	魚子	竹風	隠市	田亀	庸敬	小泉	玉一

二

追あまの河原とていふ	ねふおのるおの	帰るおのるおの	あまの泥とていふ	いふおのるおの	おのるおのるおの	おのるおのるおの	おのるおのるおの
仇三	巴洲	乙亥	東嶺	咄哉	先	朴	西

次次の戸も田家の櫓よりその礎
 二
 まの伏さけいねほきとれ
 山
 比まきうーはねふもはうと
 溪
 新の馬に 虎り まん
 子
 かしこもそねふひんあそ
 子
 あうの羽にまうぬあんげー
 風
 流趣く年とうやう江戸の月
 冊
 久ー心部とまれふと
 毫

西風ちう群ふふふふふふふ
 敬
 早連 ちれ 明々 相済 泉
 一
 新田の櫓より ちうもあねう
 一
 ちうもあねう ちうもあねう
 こ
 ちうもあねう ちうもあねう
 隠
 ちうもあねう ちうもあねう
 系

詞人畧

竹風 乙亥 陽市 知子 東嶺 田毫 山市

巴州 卷一 文海 必陽 栢毫 第二 己扇 咄哉

法華普賢偈百卷と轉讀——
牌前、傳ふると

さるまや、家のま向れ、まきと

貝錦

まき、神もまき——まき、まき

草源

蔵、りや、りや、まきの、まきの

江西

歌の新ぼろろ、おぼろろ、おぼろろ、
さき——江西、おぼろろ、おぼろろ、
さき、さき、さき、さき、さき、さき、
さき、さき、さき、さき、さき、さき、

こし

思ひ、思ひ、思ひ、思ひ、思ひ、思ひ、

五原坊

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

全キ、
傳ふ

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

終丹

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

芳麻

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

全大カキ
半慈

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

徳之

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

洛師
一推

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

加母不吉
大膳

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

全尼
茶園

まき、まき、まき、まき、まき、まき、

解中書付
傳之

此世よりくさるや 蓮のむ 牡丹をえ上 壺中
 風流もやいや 秋は玉 晴 全書云 北而
 山はさうよ 流水のふ白ぬ 一飛
 定めらるやあつらふもの 風草
 常盤ももさきとく 山吹 便 山吹 松仙
 鶴のきも同やうけて 雲のり 豊井
 河内多の雨うけの 流水ぬ 青野
 几番ももさきとく 形 雲のり 十千

長くくさるや 蓮のむ 牡丹をえ上 壺中
 風流もやいや 秋は玉 晴 全書云 北而
 山はさうよ 流水のふ白ぬ 一飛
 定めらるやあつらふもの 風草
 常盤ももさきとく 山吹 便 山吹 松仙
 鶴のきも同やうけて 雲のり 豊井
 河内多の雨うけの 流水ぬ 青野
 几番ももさきとく 形 雲のり 十千

長閑
 長閑

果ては終つて對法の間を以て、
と事いふべく其まゝとて人々
色く此地へ來りて、まづこれの
なる人も王曉村の自筆の詩一篇
間ノ林宏を遠くせり東花坊の役名
の一牽はく牌前へ指くまゝに

之は常に因縁を疏釋もたし
ふく此詩をこゝに於て多年
いふ所へふたあはれと云ふ
中書へて、この年を以て
四と云ふは此の詩を以て

後日向ゆへに、抑へ
けりしとて、其の新あは
れと云ふは、此の詩を以て
さういふは世の全の事と云ふ

心

心

心



如常

書

如

如

如

如

如

如

百ヶ日追初 出席
一巡

江二坊

まあさひや 高きと 玉ゆき

さうきふも 舟のあり 南窓

本質も 草花も 草くみく 作風

ふも 風の あい く 必陽

晴るも 風の 沼川 里村

久し かな 旭と 路 梅庵

けちのき さいきん 山びと 山市

まろ ちやうと 花より 第二

まふも ふもと 花より 隠市

さうきのき ちやうと 花より 乙英

おちあふ ちやうと 花より 草流

さうきのき ちやうと 花より 咄哉

行側 ちやうと 草より 軒下 田庵

あふも ちやうと 草より 東嶺

生かよぬるうみぬ通ふのうみ
句とりとくくそちを思ふ

とくは

絲めよやういそと山けい わか 丑飛坊
一雨の晴てうみぬく島 キフ の秋 代中を
うみぬてあぬとやかんこも 大カキ 半菰
あぬとくく日と暮し な更 陰名

草をはせうとく な うふ 洞 董年
幕よけよぬとく 黒中 梅のむ 二狂
うけうやうはさ 山岩村 の 柳せ風 杜若
ううぬぬ 園 の 雲や 柳せむ 知六
めけ道の葉う カキタ ちくぬ 見ル
ふ 松 尚方ち 松 のむ 井流
はくろいぬ 山縣 ちくぬ 柳のむ 東洞

三

十四

十四

尾張

ナニヤ

松やうふやうう漢の玉而 百松
 篠川や色うらと 千景
 鹿の沖うらや 韋下
 川やうと 風舟
 鳴るふふふふふ 枯柳
 夢と醒る初毛うらや 一鳥
 床のまや秋のまれと 一夜

行啓

冷やうと 帆十
 ふあふ 葉故
 神のうらふはむやふ 麦士
 夢のうらふはむとふ 枝山

地家

人いふとふ 一色坊
 うらふや 三四
 田やうと 西推

まのの娘もろくろ 祢 ミナ 孤王

名やふ 小糸と長より カウ山 曲浦

れの中にも秋よりさお明る 傍 島仙

名とむし 飾るやうやう月 を 花林

おとろくろくろくく内おふ 廿 角く

おとろくろくろくや 竜田川 文を

月やふふふふふ 明の流 樂泉

青のふれ連はくろく カナツ 永六

加賀

一日の境も かき 大眼

おねふやにねね ねね 代

おろくろくろくろく ツバタ 玉目

能登

結張の地へ て 夜啼

越中

えのそもほそ 魚津 侍老

佐渡

浪高しうい舟や卯しるれ

相川

る作

一思ふあるうも由し一思ふる

廿

竹染

よしせやけくを田しりる後

以貴

えしきの嘆や底るおとろ

清川

ま新と化してねふ尾むふ

北漢

心好

炭竈七ころ白し山さう

彦園

風景

まやまふてねしるおねいし

北而

ろく痛むまやま葉も恥てろ

林崎

土壺中

あまやううまふ方とてうれ合

お座

清溪

ふれしうねるふさりお佛を合

清松

清しとや小まふねのうめあう

小ツニ

さる尾

陸奥

ね修一えの比

お修

ねのまやふ清くを命くを思

板白

梅のまや一と一軒くも能通

坂下

東雲

梅のまや一と一軒くも能通

仙臺

文芝

新ももぬけと穴あうと根川

根前

巴角

紀伊

花れおひみのうと花れ

慈野

芳水

大和

ととれと花と一と花れ

長谷

二風

肥後

花と花と一と花れ

宇土

乙諸

伊予

花と花と一と花れ

岡山

花君

土佐

花と花と一と花れ

高知

午取

花と花と一と花れ

同梨

花と花と一と花れ

竹根

山城

年くのゑあつて一推京
おとくもまた悠々山只

信法

去るも山をさるゝ善光寺
東伯

秋後

長鹿と遠くや。巨長岡
むい後とあつてり小園
山只

森とくのもつてふう字
月もさるゝてく乙被
あふれ他も累花菱
ひくつひくつ起石
あつたやう黒雲
さるのぬや竹の編風二
あつたやう笠巾
あつたやう柳尾
あつたやう吹石

鳥屋のまゝくまゝ 巨魁を
 らるゝと 繁 然し 例へ 終ふ
 中つむやまゝも 著る せあゝ
 まゝと せゝゝ ぬきや 和 福
 深あけの 物お くる せゝ ねの月
 是ゝとに せゝゝ せゝゝ ぬき 魚こ
 まゝや けゝゝ せゝゝ ぬき 馬 櫓
 まゝや 啼ゝゝ せゝゝ ぬき 馬 櫓
 せゝゝ 色 ヨイタ 去 留

車きふゝゝゝ ぬ 果 然や らゝゝ
 ぬきやゝゝゝ ぬきやゝゝゝ
 らゝゝや ね ぬの せゝゝ ぬ
 けのゝゝゝ ぬきやゝゝゝ け 月
 ねゝゝゝ ぬきやゝゝゝ ぬき 魚
 らゝゝゝ ぬきやゝゝゝ ぬき 魚
 見ぬゝゝゝ ぬきやゝゝゝ ぬき 魚
 ぬきゝゝゝ ぬきやゝゝゝ ぬき 魚
 一 風

目下のももゆき うきめき 春風

あーやあきくくくく 極ち

あきくくくくくくくくくく 出せぬ お涙

あ月のあきくくくく 仙風

あきくくくくくくくくく 浮屋

あきくくくくくくくくく 吉田 東宇

あきくくくくくくくくく 矢柳

あきくくくくくくくくく 巻 お文

あきくくくくくくくくく 石井

あきくくくくくくくくく 里柳

あきくくくくくくくくく 孤山

あきくくくくくくくくく 杜井

あきくくくくくくくくく 三根山 ひと

あきくくくくくくくくく 一土心

あきくくくくくくくくく 寛元

あきくくくくくくくくく 芳村

秋もくもあつても 一 左文

そと誰の裸とやう 水金魚 ほろ 湖抱

ふれや月うへ 新の鳴いても 十菊

まき又入や色もふく 所の鳴 中 途

後おや早も柳より ころ こつて 多枝

限りのねのともさよ 知さく 菊里

一摘とあれい えて 又草花 鼠二

まほもほろあへり 今町 三圭

一八も 鳴り 下り 佛 鮎田 雄飛

あゝぬの 夕やと ぬて ぬふふ 金 右林

夕 露や 露も あり 金ふ 所の 垣 金 里宮

葉のむや ぬ葉も けけ 田 畠 井 牧牛

あゝ人の ぬも なふ ぬ 野 丑

ふふふ 下条 菊文

風 煙 先 一 情 紗 ころや ぬ 牡丹 中 里

く 川 ころや 鳴 とも ぬふ 葉 ころ 也 柳

茅の葎し秋ゆゑうろく 礼二
短おと前より詠ふのふゆふ 如流
けう一の月とてやうゆや離の所 カモ 柳止
離のふゆ山里とてものこく ミラ山 里竹
夕月や露星うろとあはれ後 小猿 雲柳
居寔や地元の煙と山隈 カマクラ 赤瓦
風はく柳や川とふくころ 川舟
川瀬川やうろと星のふ月と ヘシク 百鈴

茅の葎しこころとて秋 文庫
秋まのふゆ風 九田 百通
月あてある軒や柳とてあつ月 望遠
ふのろく、秋とて細くは地味 新津 杜明
碎るのふゆふ 赤や合意のむ 赤石
けくろふぬ、秋とて秋のある柳とて 赤菊
橋のふゆふとてふゆふれれ 水京 一帆
名ふのふゆとてあつて 飄々 赤石

卷之五 集古 巨野 仙

多
少
一
言
之
所
以

豊竹

所方々所々所々
 寸寸

幼年と甲斐とくさくさ河に
如來

清見と申れぬや合部といふ

高の所の雨やまゝけて
おゝゝゝ

川
特
也
柳
之
滑
之
伍
正
節
入
下
下
阿
佳

[illegible]

舟のしらやうきうきうきうきのほあを 東を
 けうきうきうきのけや 軒あや 里角
 けうきうきうきうきうきうきうきうきう 黒川 花砌
 人の目きうきうきうきうきうきうきう 二山
 けうきうきうきうきうきうきうきうきう 五龍
 名取きうきうきうきうきうきうきう 五龍 花亭
 名取きうきうきうきうきうきうきう 五龍 右之
 名取きうきうきうきうきうきうきう 五龍 由幸
 名取きうきうきうきうきうきうきう 五龍

舟のしらやうきうきうきうきのほあを 東を
 けうきうきうきのけや 軒あや 里角
 けうきうきうきうきうきうきうきうきう 黒川 花砌
 人の目きうきうきうきうきうきうきう 二山
 けうきうきうきうきうきうきうきうきう 五龍
 名取きうきうきうきうきうきうきう 五龍 花亭
 名取きうきうきうきうきうきうきう 五龍 右之
 名取きうきうきうきうきうきうきう 五龍 由幸
 名取きうきうきうきうきうきうきう 五龍

市うの神ふけあり神られ 以文

机右

氣うういふ行と四いまうう 文光
ゆりねとふく 柳あやう月 竹風
雉ふのふきふとふや 景とふ 乙英
そふやふふとふとふふふれ 馬市
ふふふふふふふふふ 後月 知を

煙とちや木の影ふおとふふ 庸敬
漏る影やふふふふふ 辰の月 東嶺
清風やふふふふふ 柳のあやう 月毫
きふのふや村く ちうとふ 巴洲
うふふふふとふふふふふ 山市
何ふふふふふふ 明馬 凡三
春行のふふふふ 羅のふふ 魚子
凡ふふふふふふ ありふふふ 水泉

度うも風のそりまけられ
 春風
 まいゆきうきうきうき
 花月
 鬼の心の後うきやうの舞
 花月
 片るも女のまやむられ
 花月
 まいゆきうきうき
 花月
 柳うきやうきやうき
 花月
 顔のまうきうき
 花月
 まいゆきうきうき
 花月

行新や梅もまうきうき
 一有
 まいゆきうきうき
 花月
 ちうきうきうき
 花月
 うきうきうき
 花月
 碎てうきうき
 花月
 柳のまうきうき
 花月
 一橋うきうき
 花月
 まいゆきうきうき
 花月

